岡山県内経済情勢報告

令和８年11月５日

財務省中国財務局

岡山財務事務所

本調査にかかるお問い合わせ先
財務省中国財務局岡山財務事務所
財務課
TEL（086）223－1131

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、緩やかに回復しつつある」

項　目	前回（8 年 7 月判断）	今回（8 年 10 月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	**緩やかに回復しつつある**	→

（注）8 年 10 月判断は、前回 8 年 7 月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項　目	前回（8 年 7 月判断）	今回（8 年 10 月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	**緩やかに回復しつつある**	→
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	**緩やかに持ち直しつつある**	→
雇用情勢	改善に向けた動きに一服感がみられる	**緩やかに持ち直しつつある**	↗
設備投資	8 年度は前年度を上回る見込み	**8 年度は前年度を上回る見込み**	→
企業収益	8 年度は減益見込み	**8 年度は減益見込み**	→
企業の景況感	「下降」超幅が拡大している	**「下降」超幅が縮小している**	→
住宅建設	前年を下回っている	**前年を上回っている**	↗
輸出	前年を上回っている	**前年を上回っている**	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパー販売は、商品価格の値上げの動きが鈍化していることから前年並みとなっている。コンビニエンスストア販売は、販売促進施策での売上が好調なものの、節約志向が続いているほか、天候不良により前年を下回っている。家電大型専門店販売は、省エネ基準の引上げが予定されているエアコンなどが好調なことから前年を上回っている。ドラッグストア販売は、販売促進の強化により基礎化粧品などが好調だったことから前年を上回っている。ホームセンター販売は、天候不良や猛暑により客数が減少したことなどから前年を下回っている。乗用車販売は、前年を上回っている。

このように、個人消費は、緩やかに回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 富裕層における高価格帯のバッグや宝飾などの売上は好調である。一方で、地域の物産展といった催事では前年を上回るなど売上が好調となるものの、日常消費用の食品などは、低価格帯の他業態に需要が流出しているなど「メリハリ消費」の流れが加速している。(百貨店)
- 昨年と比較するとメーカーの値上げのペースは鈍化しているものの、一人当たりの買上点数の減少が続いている。(スーパー)
- キャラクターなどとのコラボ商品など高付加価値商品の購買意欲は底堅いものがあるものの、PB 商品が好まれるなど低価格志向は続いている。(コンビニエンスストア)
- 令和 9 年 4 月の省エネ基準引上げを控え、エアコンの駆け込み需要がみられている。また、大型テレビの価格が以前より低下していることから、買い替え時に大型・高品質のテレビを購入する傾向もみられる。(家電大型専門店)
- ポイントなどによる販売促進を強化したことや SNS でインフルエンサーが商品を紹介した影響により、基礎化粧品が好調となった。(ドラッグストア)
- 6 月は台風や週末に雨の日が多かったため客数が伸びなかった。また、7 月や 8 月は猛暑日が多く気温が高かったことから、メイン顧客である高齢者層の客足が遠のいた。(ホームセンター)
- 今年のシルバーウィークは休日の並びがよく、旅行需要が活発だったことから土産物を中心に売上が好調に推移した。商品価格の値上げがあったものの、定番商品の価格には依然として手頃感があり、土産物の需要の高さは変わらない。(専門店)

■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

輸送機械は、造船で豊富な受注残を抱えている中、自動車の生産水準が一時的に減少したものの、足下では持ち直している。化学は、原料供給の減少の影響が解消し、一時的に生産水準が上がったものの、需要の低迷により生産水準は弱めの動きとなっている。汎用・生産用・業務用機械は、需要が堅調なことから、概ね横ばいとなっている。電気機械は、AI 向けや車載向けの需要が好調なことなどから、増加している。鉄鋼は、船舶向けが堅調なことなどから、概ね横ばいとなっている。

このように、生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。

- 熊本地震の影響によりメーカーの生産ラインが稼働停止したことから、一時的に部品受注が計画値を下回ったものの、その後は計画値を上回る受注となっている。(自動車)
- 6 月は中東情勢の影響による減産の反動により増加した。なお、安価な海外産の流入や脱プラスチックの動きから国内外の需要が引き続き弱めで推移しているため、需要に見合った数量を生産している。(化学)
- 受注残があり、需要も堅調なことから、生産量は安定している。(汎用・生産用・業務用機械)
- AI サーバーなどデータセンター向けの需要が旺盛であり、関連製品の受注・生産は好調に推移している。(電気機械)
- 資材価格の高騰や人手不足などから、建築向け鋼材の需要は伸び悩んでいるものの、船舶向け需要は堅調である。(鉄鋼)

■　雇用情勢　「緩やかに持ち直しつつある」

新規求人数は前年を下回っているものの、有効求人倍率は高水準で推移している。また、企業の人手不足感は、法人企業景気予測調査（8 年 7-9 月期）の従業員数判断 BSI でみると、製造業・非製造業いずれにおいても「不足気味」超が続いており、人手不足を背景に企業の採用意欲が高い状況にある。このように、雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。

- ➢　求人は引き続き弱含んでおり、物価高が続いていることや最低賃金が上昇していることなどコスト高から欠員補充を遅らせたり見送ったりする「求人控え」の動きなどがみられる。（職業紹介）
- ➢　当社ホームページや店舗毎の募集案内のほか、民間の求人募集サイトを活用しており、現状は募集を行えば一定数の応募がある。（小売）
- ➢　学生アルバイトについては、民間求人サイトを通じた応募が多い。（小売）

■　設備投資　「8 年度は前年度を上回る見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」8 年 7-9 月期

○　製造業では、自動車などで減少するものの、鉄鋼や化学などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

○　非製造業では、運輸・郵便などで減少するものの、小売や金融・保険などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

- ➢　前年度は大型の設備投資を行ったが、今年度は通常投資としている。（自動車）
- ➢　今年度、製品ラインナップの拡充のための生産設備を整備する予定である。（鉄鋼）
- ➢　生産設備の増設や更新を行うこととしている。（化学）
- ➢　前年度は車両計器の更新を行ったが、今年度は反動減となっている。（運輸・郵便）
- ➢　老朽化した店舗の建替えのほか、サーバや端末の更新を行う予定。また、営業用システムの更新等も行う予定である。（金融・保険）
- ➢　物流センターの新設に着手するほか、既存の店舗の改装も継続して行う予定である。（小売）

■　企業収益　「8 年度は減益見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」8 年 7-9 月期

○　製造業では、電気機械などで増益となるものの、化学や情報通信機械などで減益となることから、全体では減益見込みとなっている。

○　非製造業では、小売などで増益となるものの、学術研究等や運輸・郵便などで減益となることから、全体では減益見込みとなっている。

■　企業の景況感　「『下降』超幅が縮小している」（全産業）「法人企業景気予測調査」8 年 7-9 月期

○　企業の景況判断 BSI は、「下降」超幅が縮小している。なお、翌期は「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■　住宅建設　「前年を上回っている」

○　新設住宅着工戸数でみると、分譲住宅などが増加していることから、前年を上回っている。

■　輸出　「前年を上回っている」

○　輸出は、品目別では、石油製品や化学製品などが増加していることから、前年を上回っている。なお、地域別では、アジアなどで前年を上回っている。

岡 山 県 内 経 済 情 勢 報 告

資　　料　　編

目　　次　　ページ

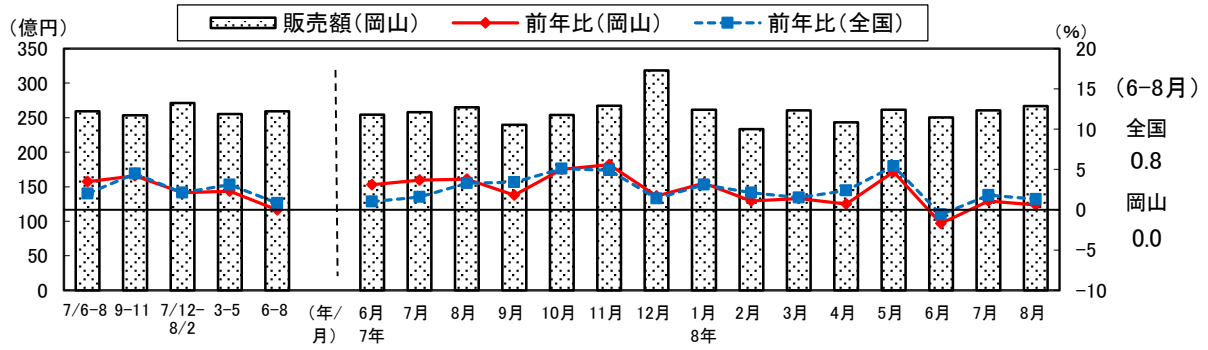
1. 個　人　消　費 …… 1
2. 生　産　活　動 …… 3
3. 雇　用　情　勢 …… 4
4. 設　備　投　資 …… 5
5. 企　業　収　益 …… 5
6. 企　業　の　景　況　感 …… 5
7. 住　宅　建　設 …… 6
8. 輸　　出 …… 6

※グラフの外枠（右側）に記載している計数は、各項目の状況を分析する上で参考とした前年比、指数、倍率。

1.個人消費　　緩やかに回復しつつある

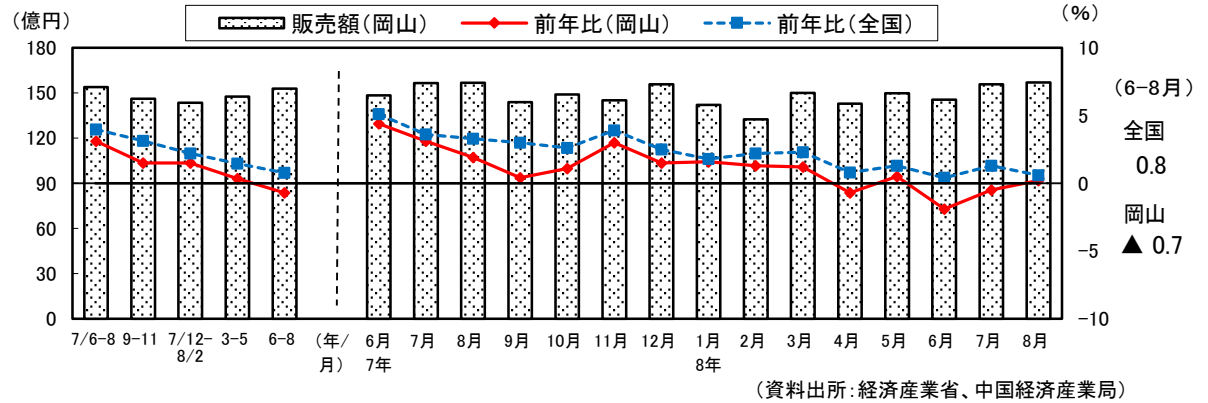
（注）(1)～(5)の各グラフの3か月毎の販売額は、1月あたりの平均

(1)百貨店・スーパー販売額（全店舗：前年比）



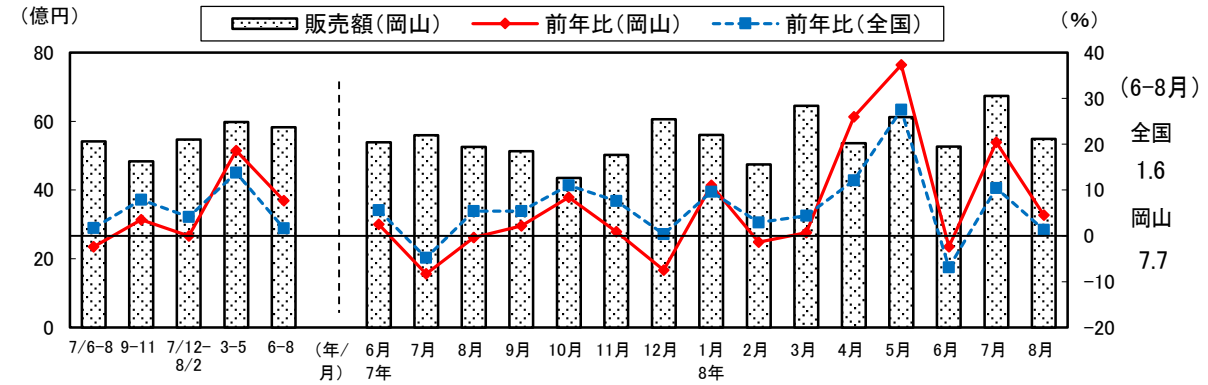
（資料出所：経済産業省、中国経済産業局）

(2)コンビニエンスストア販売額（全店舗：前年比）



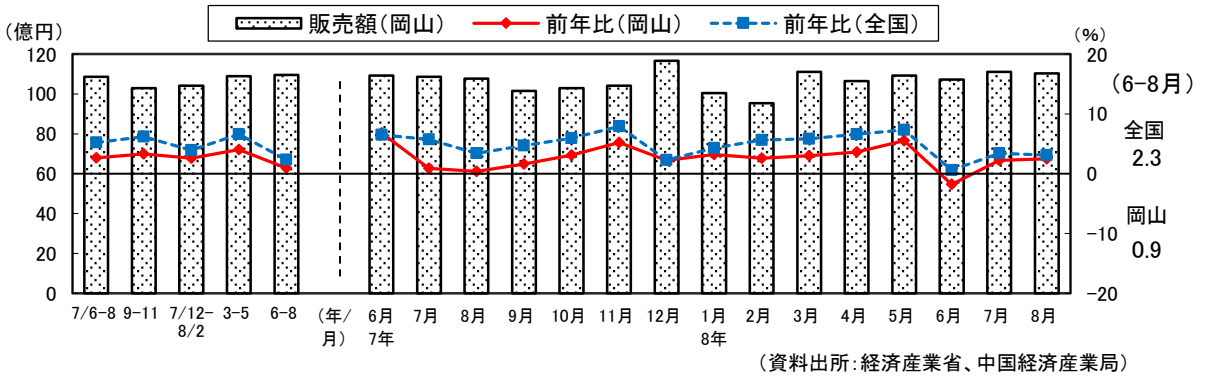
（資料出所：経済産業省、中国経済産業局）

(3)家電大型専門店販売額（全店舗：前年比）



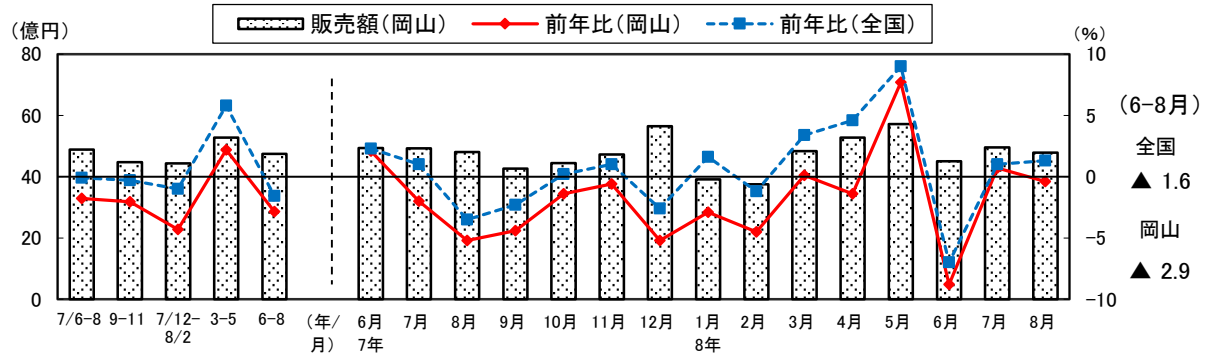
（資料出所：経済産業省、中国経済産業局）

(4)ドラッグストア販売額（全店舗：前年比）



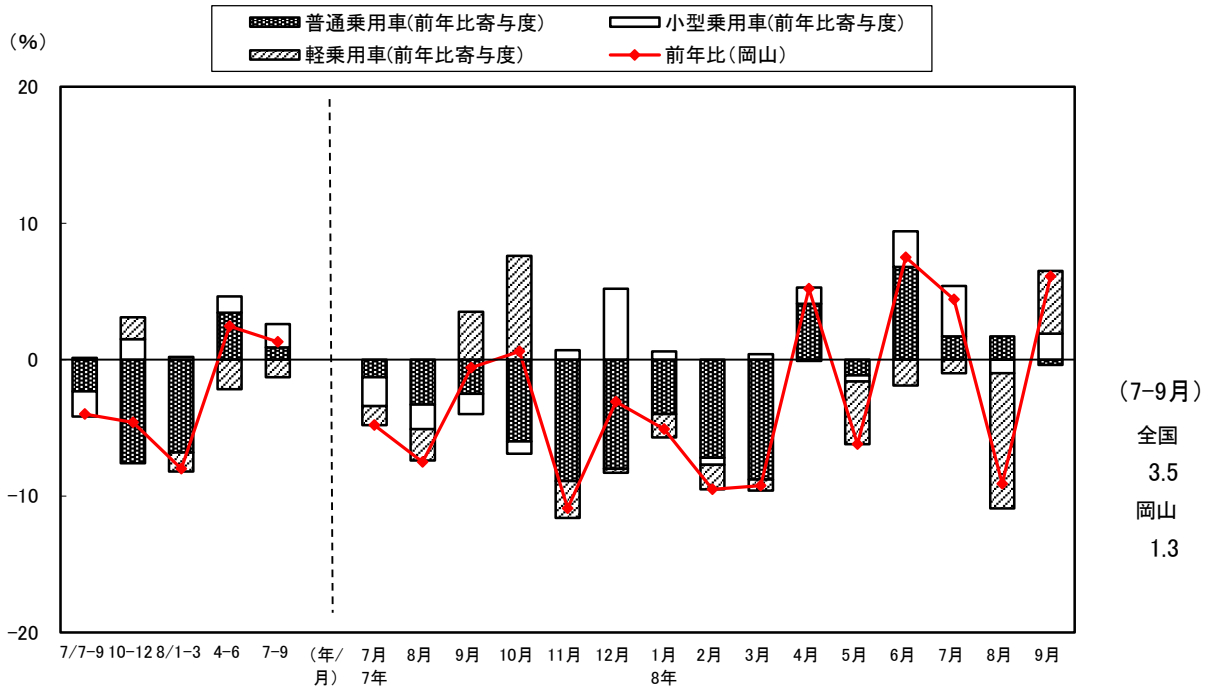
（資料出所：経済産業省、中国経済産業局）

(5)ホームセンター販売額(全店舗:前年比)



(資料出所:経済産業省、中国経済産業局)

(6)乗用車販売(新車登録・届出台数)

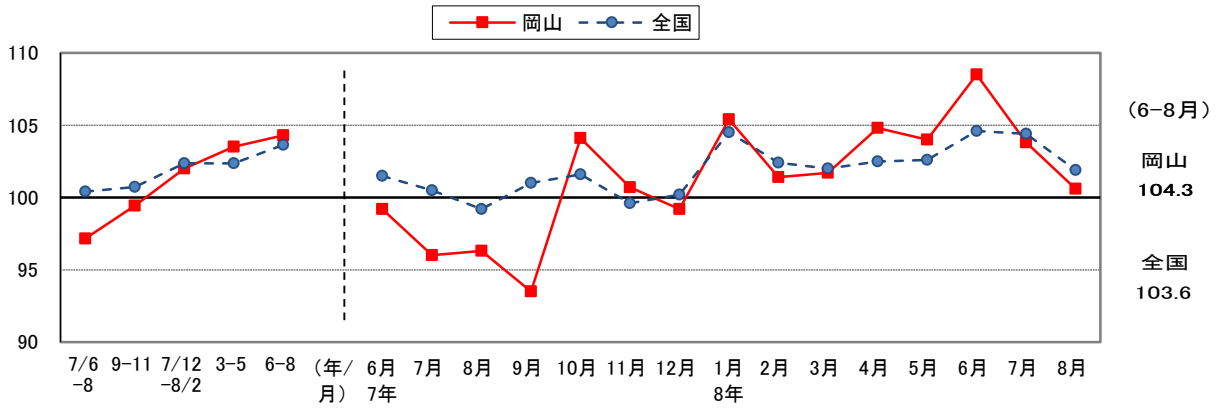


(資料出所:中国運輸局岡山運輸支局、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会)

2.生産活動　　緩やかに持ち直しつつある

(1)鉱工業生産指数(季節調整済)

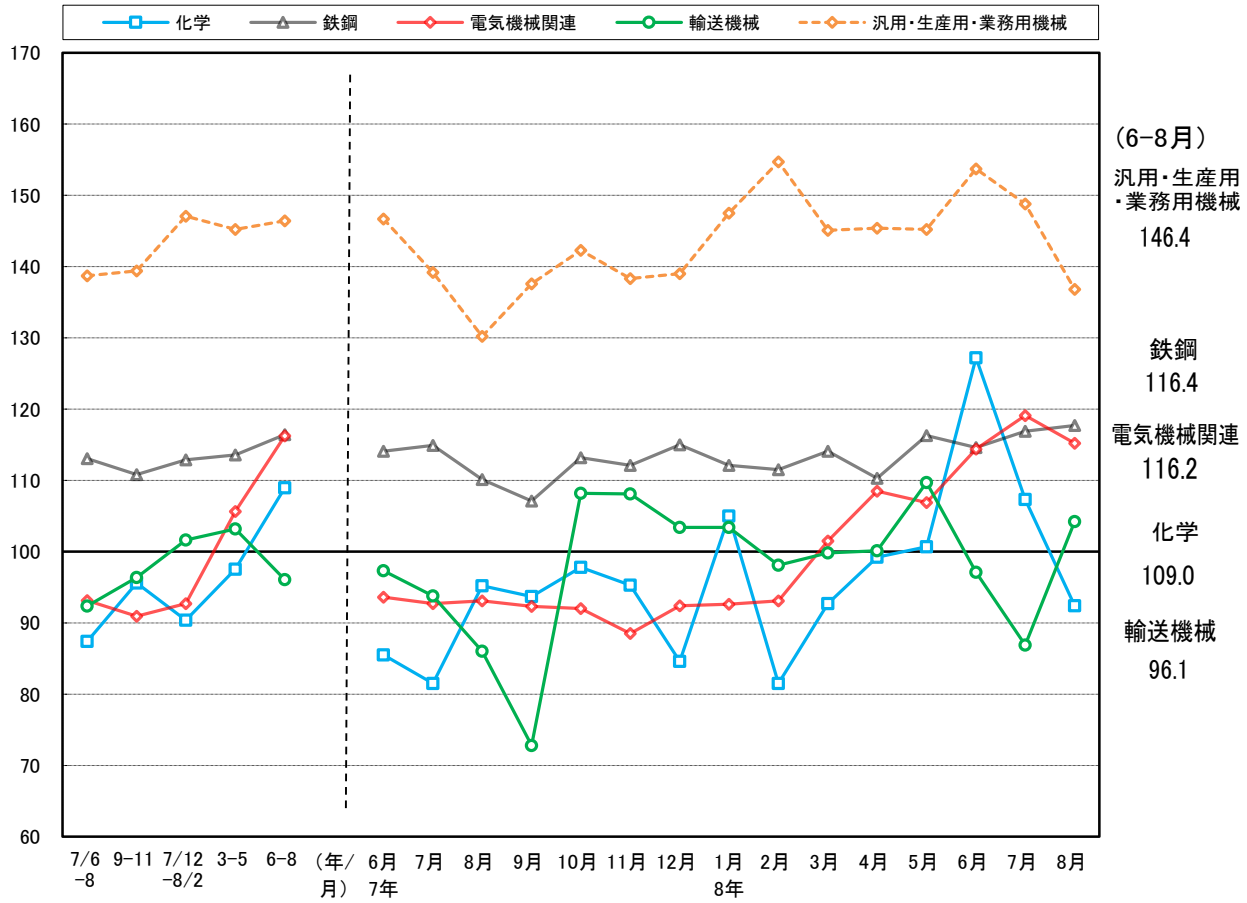
(指数)(令和2年＝100)



(資料出所:経済産業省、岡山県)

(2)主要産業別生産指数(季節調整済)

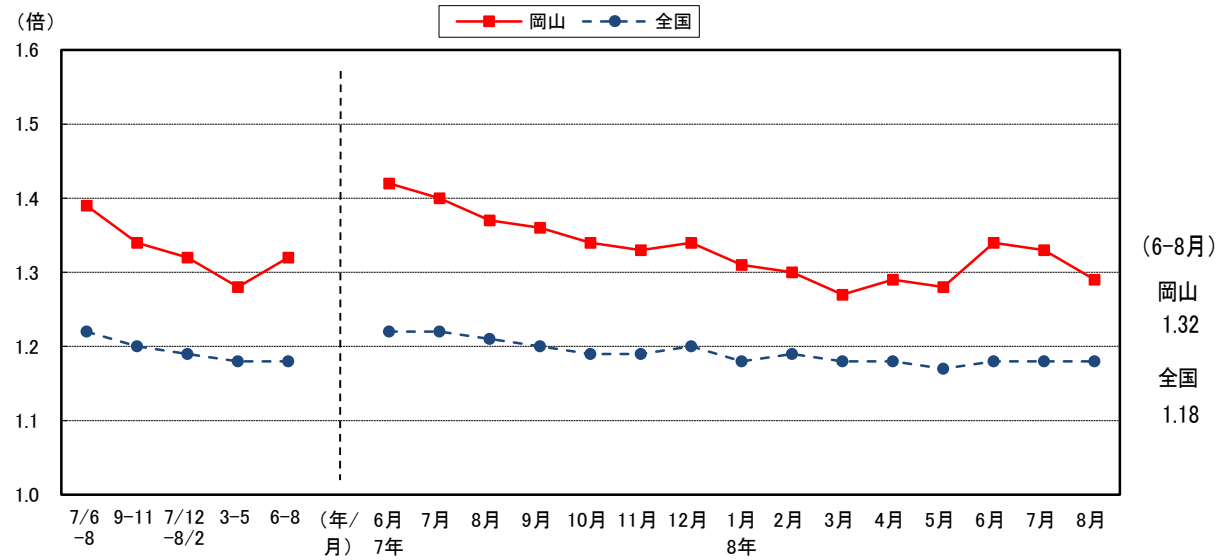
(指数)(令和2年＝100)



(資料出所:岡山県)

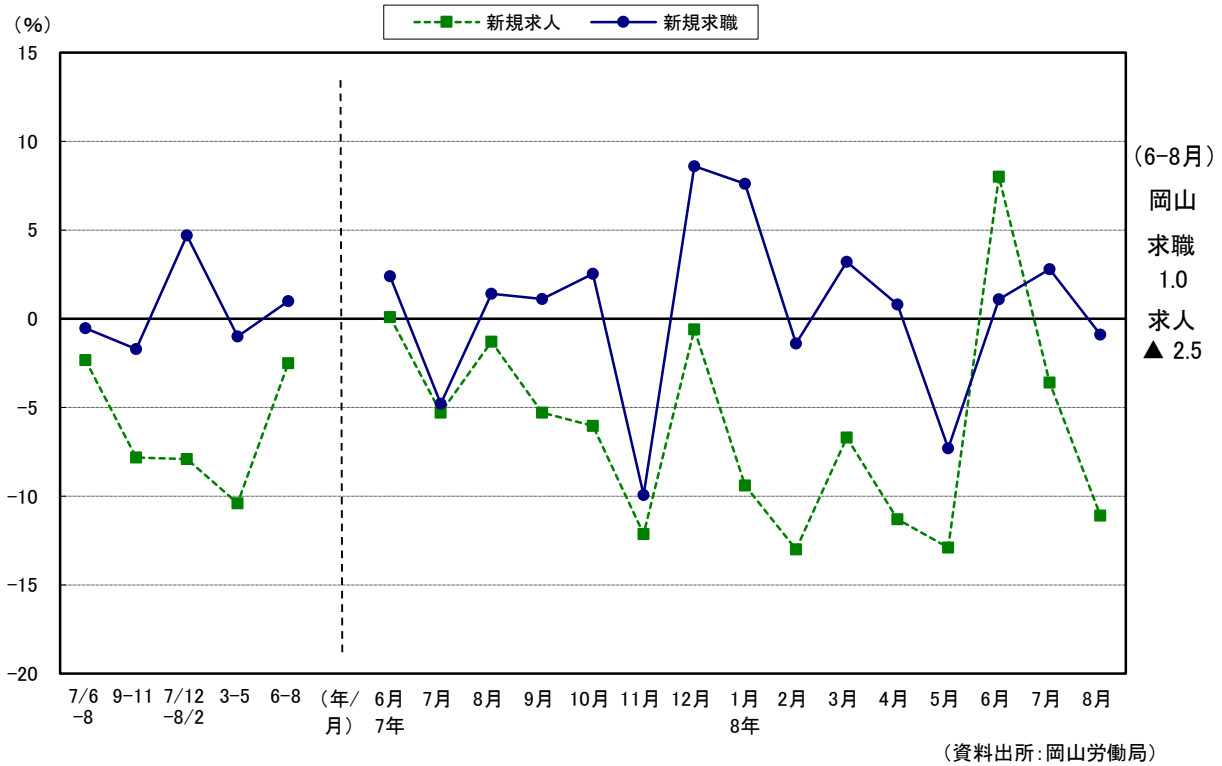
3.雇用情勢　　緩やかに持ち直しつつある

(1)有効求人倍率(学卒を除く、季節調整値)



(資料出所:厚生労働省、岡山労働局)

(2)新規求人数・求職者数(学卒を除く、原数値)の前年比



(資料出所:岡山労働局)

4.設備投資（除く土地、含むソフトウェア投資）　8年度は前年度を上回る見込み

（前年度比増減率：%）

設備投資	全産業	製造業	非製造業
8年度	(41.2)　36.2	(58.9)　46.6	(8.5)　16.8

（注）当所法人企業景気予測調査（8年7～9月期）結果
（ ）書きは前回（8年4～6月期）調査結果

（資料出所：岡山財務事務所）

5.企業収益（電気・ガス・水道業及び金融業・保険業を除く）　8年度は減益見込み

（前年度比増減率：%）

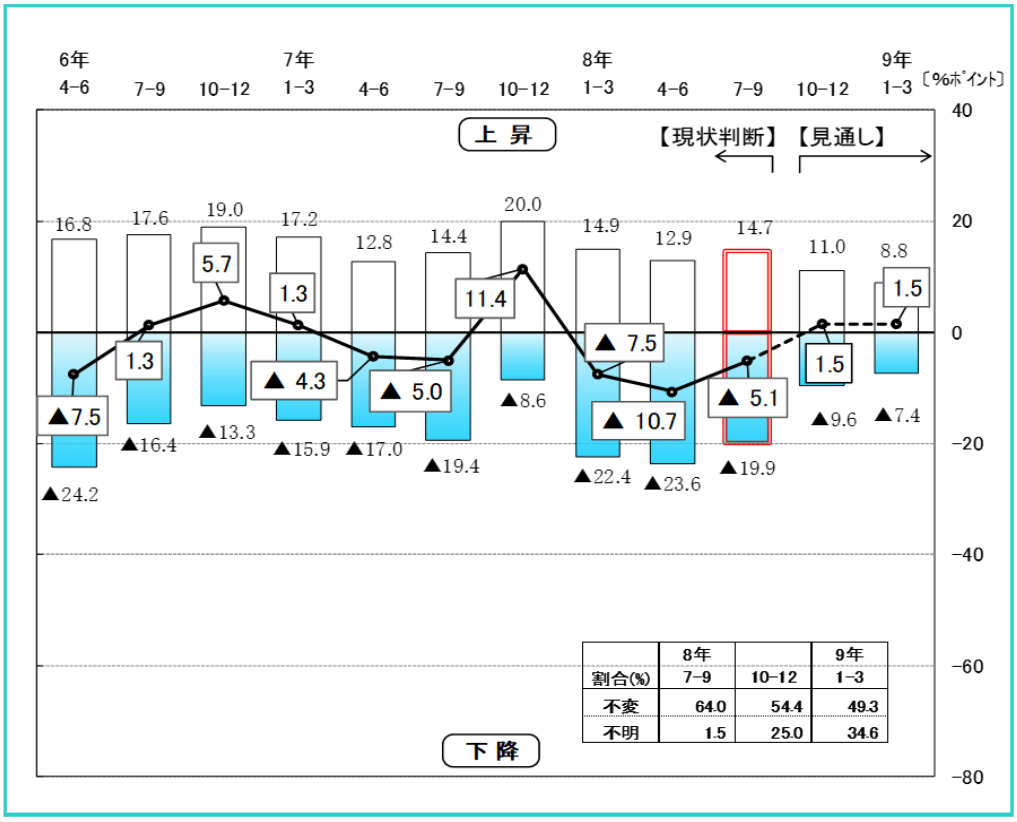
経常利益	全産業	製造業	非製造業
8年度	(▲42.8)　▲ 33.2	(▲49.6)　▲ 40.8	(▲30.6)　▲ 19.4

（注）当所法人企業景気予測調査（8年7～9月期）結果
（ ）書きは前回（8年4～6月期）調査結果

（資料出所：岡山財務事務所）

6.企業の景況感　「下降」超幅が縮小している

景況判断BSIの推移（原数値）（BSI：前期比判断「上昇」-「下降」社数構成比）

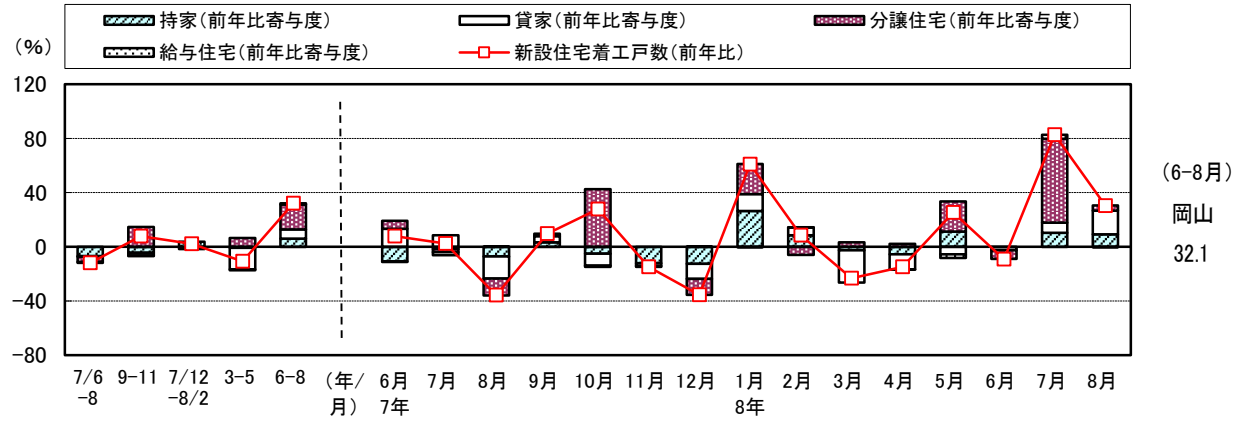


（注）当所法人企業景気予測調査（8年7～9月期）結果

（資料出所：岡山財務事務所）

7.住宅建設　　前年を上回っている

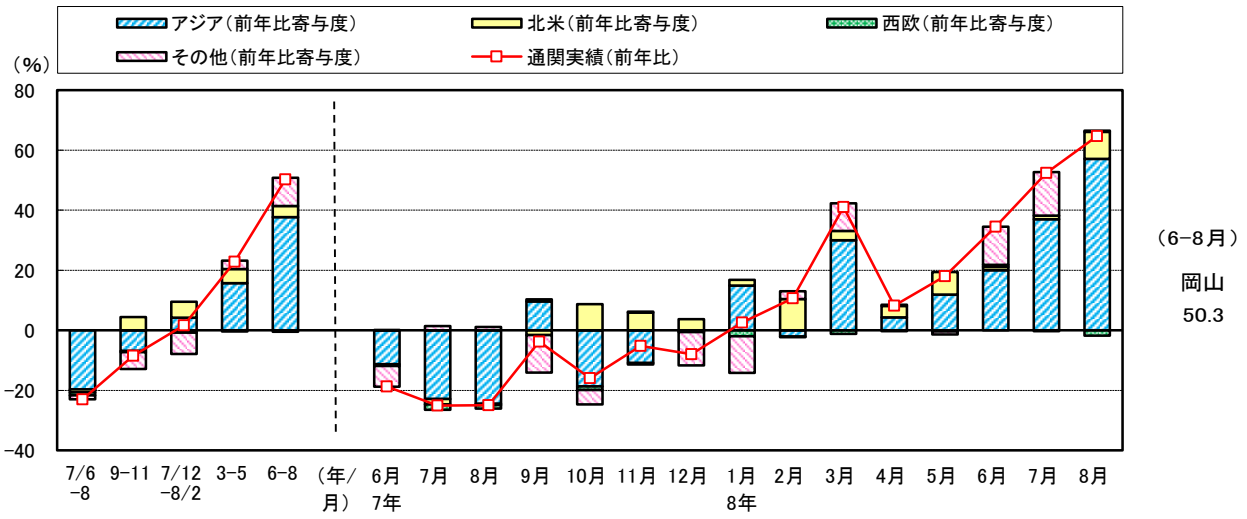
新設住宅着工戸数(前年比及び利用形態別寄与度)



(資料出所:国土交通省)

8.輸出　　前年を上回っている

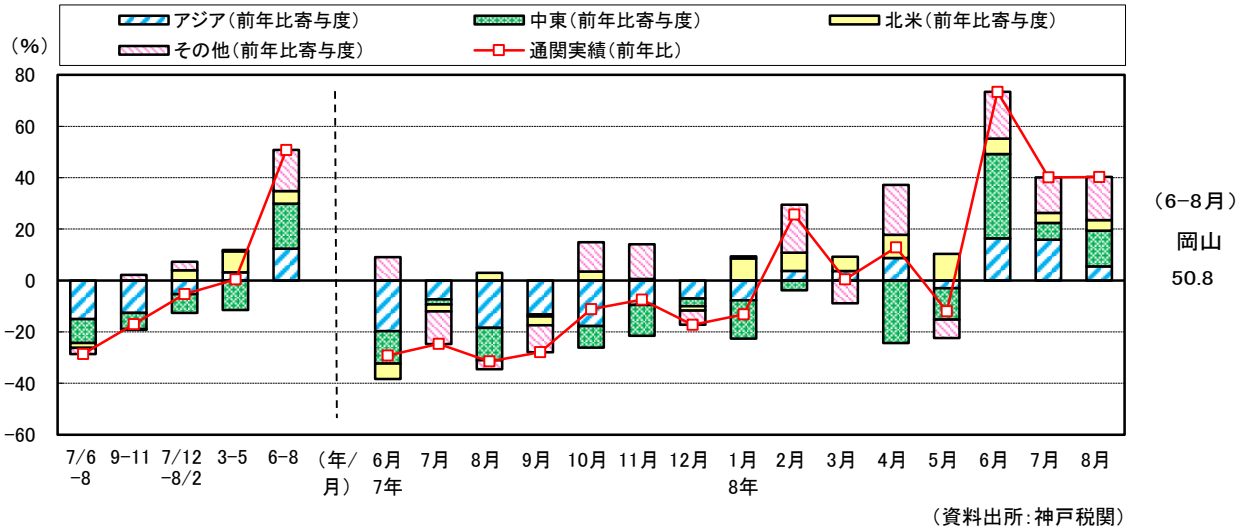
輸出(円ベース)



(資料出所:神戸税関)

＜参考＞

輸入(円ベース)



(資料出所:神戸税関)